

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572608990		
法人名	有限会社ゆう愛		
事業所名	グループホーム サン・ピア		
所在地	秋田県仙北郡美郷町六郷字熊野118-1		
自己評価作成日	令和6年3月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人秋田県社会福祉士会		
所在地	秋田県秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館内		
訪問調査日	令和6年3月22日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

サンピアでは利用者様が自分らしく安心していきいきと生活できますよう、一人ひとりのペースを大事にし、できる事を活かせるような支援をしております。又、居心地の良い環境づくりを常に考え、壁面の飾りつけや美味しい食事の提供などにも力を入れています。職員は社内研修や社外研修にも参加し、レベルアップに努めております。地域との交流として利用者様や職員が地域行事への参加や、地域の方々『ゆう愛』主催の介護予防教室へ毎月参加され、定着してきており関係が築けていると思います。医療面においても毎月のお便りを利用し報告したり電話にて連絡を取り合っております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所内は清潔感があり感染対策にも十分に配慮されています。周りからの採光もあり館内は明るく居心地の良さが感じられます。利用者1人1人の個性を尊重した対応がされている一方で、安全面にも配慮し利用者の行動ができる限り制限される事のないように取り組まれ、また、重度化した場合の対応に係る指針を入居時に説明し、重度化しても「その人らしい」生活が送れるように生活のニーズの変化に応じた支援をするために家族・地域との連携をし、尊厳のある生活を保ち「生活の質」が維持できるようなケアをしていくと利用者の「生活の質を」第一に考えるケアの実現に向けている。災害時や日々の健康管理面でも法人内での連携体制がとれています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールの見えやすい場所にケア理念を掲示しており、職員全員が共有できるよう、意識付け、日々の実践に心がけている。	ホール中央の見えやすい壁面に、施設の理念が大きな文字で掲示され、共有されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの影響で地域の方々との交流は難しい状況ではあるが、会えばお互いに挨拶は交わしている。	地域の町内会に加入。コロナのため、地域の行事は減ってきているが、施設で行っている避難訓練を利用して、地域住民とも緊急時の協力体制を整えたり、散歩、買い物等で挨拶できる顔見知りの関係は継続できている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症何でも相談所を設置している。今はコロナのため地域の方々にお伝えすることは難しくなっている。運営推進会議の資料の報告のみで行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や取り組み等報告しているが、今はコロナ禍のため資料のみで文書開催になっている。	コロナのため文書開催となっていたが、令和6年1月に対面での開催を再開。利用者、家族、地域住民、行政等の参加を得て開催され、意見交換、サービスの向上が図られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では行政や地域住民、家族に文書開催ではあるが、取り組みを報告しながら意見交換を行い、良い関係が持てるよう取り組んでいる。	行政担当者とは日頃から連携、相談しやすい関係。運営推進会議では、高齢者施設の課題を自助、共助、公助で取り組んでいくことのアドバイスや協力を確認している。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を通し何が身体拘束にあたるのか、全職員が理解し業務にあたるよう努めている。日中は玄関の施錠もしておらず、身体拘束をしないケアに努めている。個人の尊厳を尊重し、出来る範囲で本人が行動出来るように行っている。日々の関わりの中に虐待の要素がないか注意を払い防止に努めている。	個人の尊厳を尊重、身体拘束をしないケアに努めている。日中は玄関の施錠もしていない。身体拘束適正委員会主催の社内研修者や月1回の職員会議でも身体拘束にあたるケアになっていないかなどの確認がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画に組み込まれており、学ぶ機会を設けている。管理者と職員は利用者様の環境を共有し話し合いをもっている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者様や家族様がわかりやすく、不足のない説明を心がけ、理解・納得を図っている。改定等あればその都度文書で連絡している。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	年6回の運営推進会議でご利用者様やご家族様の意見を伺うことができている。助言があった時は運営に反映させるようにしている。又、面会に来られた際ご家族様と会話する中で伺うこともある。	運営推進会議への家族等の出席や、書面開催の場合はお便り等で意見、要望、苦情等の確認を行い、毎月家族へ送る「サンビアだより」にて結果を報告している。職員は面会時の家族との会話や聞き取りも大事にし、施設運営に反映させている。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月の職員会議や申し送りの時、又、面談の場を設け、意見を出したり提案を聞く機会を設けている。代表者は管理者や職員個々の努力や資格手当を設け職場環境・条件の整備に努めている。	随時管理者へ直接提案があることも多く、話しやすい関係となっている。その他、職員会議で議題にしたり、代表者による個人面談は年1回。資格取得への助成や資格手当など働きやすい職場環境作りに努めている。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は外部での研修や病院主催の研修へ参加するなど、ケアの方法や考え方の違いを学ぶことが出来ていたが、今年はコロナの為まだ再開できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期のご利用時は特に不安な事や困って事がなか、会話や体調確認しながら耳を安心出来るような関係づくりに努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期のご利用時は特に家族が困っていたり不安に思っていること、要望等に耳を傾けながら安心出来るような関係づくりに努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事、得意なことが活かされるように働きかけている。一緒に生活しているという意識で関わるようにしている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員で対応出来ない時などはご家族様に協力を依頼することもあり、協力体制を築いていると感じる。話しやすい雰囲気作りを心掛け、毎月の生活の様子をお便りで報告している。通院への同行、状態の変化などある場合は連絡等を行い協力を頂いている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	知人、友人の面会の他、行きつけの美容院などへの外出支援をしている。	地域密着のため商店など馴染みの人も多く、職員もそのつながりを大切に支援している。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係にも配慮しながらリビングでの座席にも常に配慮している。耳の遠い方には職員が仲介に入るなどし、関わりを持つよう支援している。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してもいつでも相談に応じられる旨を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で会話や表情などからできる限り本人の希望や意向の把握に努めている。職員同士でも意見交換を行っている。	入所時アセスメント「暮らしの情報、本人・家族の意向確認」を元に介護サービス計画書が作られている。日々の関わりの中で、意向や希望、心身の状況に変化が無いが把握に努め、いつでも適切な支援、変更ができるようにしている。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方、環境は常に資料(基本情報)を見て把握するよう心がけている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	毎日の申し送りや職員会議で支援方法について意見やアイデアを出し合い話し合っており、介護計画にも反映されている。	介護サービス計画書は、全職員で共有されているが、日々の申し送りや職員会議で、意見やアイデアを出し合い、本人・家族に説明、介護サービス計画書を変更することもある。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った記録をしており、気づいたことや変化を個人記録や申し送りから情報を共有している。モニタリングにより現行の介護計画の見直しができている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人行きつけの美容院・かかりつけ医療機関を継続して利用できるよう支援している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医、かかりつけ薬局等を利用するようにしている。その他月2回の訪問看護、月1回の往診が受けられる協力医療機関との関係も築いており、適切な医療を受けられるように支援している。	近隣からの入所者が多く、かかりつけ医もそのまま継続となっている。受診は、日々の生活を共にしている職員対応で、受診後家族へ報告されている。その他訪問看護を月2回、協力医療機関の往診も受けられる。必要であれば総合病院への転院もできる体制になっている。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週スタッフ同士情報を共有し、訪問看護時に状態の報告をし指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は出来る限りの面会に努めており、病院での様子や状態の変化を担当看護師から聞き、ホーム内で情報共有している。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には必ず説明し、その時期の体調に合わせ、主治医、家族との話し合いの時間を設け、方針を共有している。	入居契約書に「重度化した場合の対応に係る指針」の項目があり、説明、同意の捺印を頂いている。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急等の研修に参加し、実践に役立てられるよう努めている。緊急時対応マニュアルがあり、それに沿って対応することになっている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練(日中・夜間想定)水害訓練を実施し、避難方法を全職員が身につけると共に近所への協力を依頼している。	年2回の消防署立会いの避難訓練は、日中・夜間を想定した訓練となっており、「非常災害対策マニュアル」の整備を確認。水害訓練、ハザードマップあり。各居室入口にはマスクを数枚袋に入れて下げており、避難時は速やか装着できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーや尊厳が損なわれることの無いよう、その人に合った言葉掛けに気を付けて対応している。	利用者穏やかな表情でこやかに穏やかに過ごされており、職員も丁寧な言葉かけ、傾聴に努めている様子を確認。トイレなども、本人に気づかれぬような見守り、支援が行われている。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様と相談しながら、季節や場所にあったものを身に着けられるように支援している。行きつけの美容院へ外出し、おしゃれを楽しめる支援もしている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食の好みを把握し、毎回とはいかないが献立に採り入れたりしている。季節の野菜や山菜は地場のものをもとめるようにしている。食材の皮むきや食後の食器拭きなどにも参加していただいている。	一人一人の食の好みを把握し、献立は肉、魚、野菜など偏らないような工夫がされている。外出支援を兼ねて、道の駅などに季節を感じられる食材を求めて出かけ、話題にしたり、食すこともある。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量を把握できるように毎日の記録に残している。水分や食事が摂れていないときは、捕食で提供したり、管理者に指示を仰いでいる。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持のため、毎食後一人ひとりにうがいや歯磨きをしてもらっている。寝る前には入れ歯を洗浄剤につけ、清潔保持を支援している。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターン把握に努めている。時間でトイレへの声掛けをトイレでの排泄を支援している。	タブレットによる排泄チェック表で、個々の排泄パターンを「可視化、把握しやすい。自立、一部介助、全介助等個別対応がなされている。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄チェック表で便秘の日数などを記録して職員間で共有している。体操や腹部マッサージ、牛乳などでも排便を促す工夫をしている。便秘が続いているときは下剤の調整も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	定期的な入浴になるようにしているが、ご本人の体調や希望により前後することもある。ゆっくりした気持ちで会話しながら温度にも気を配り、満足していただけるよう支援している。	入浴は体調や希望を確認しながらも、1日2、3名でゆっくり入浴を楽しむことができるよう支援され、一人が週2回以上は入浴できるように工夫されている。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく眠れるように、寝具は清潔を保ち、室温や掛物の調整には気を配っている。一人ひとりの健康の状態に合わせて時間帯にとらわれず休んでいただくようにしている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容はファイルしておりいつでも確認できるようにしている。お薬の追加や変更があったときには特に体調や症状に変化が見られないか要観察し、変化がみられた時はかかりつけ医に相談するようにしている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や嗜好品・楽しみごとを理解し一人ひとりが「出来る」ことを役割として行ってもらえるように支援している。レクリエーションやイベント等で気分転換していただき楽しめることを取り入れるように努めている。嗜好品についても体調や薬剤に影響がなければ楽しんでもらっている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じられるよう散歩や外出を起案しお誘いしている。家族からの希望があれば一緒に外出できるように支援している。	行きつけの商店への買い物ツアーで、自由に買い物をしたり、施設の周りを散歩して、近隣の方との会話を楽しんでいる。コロナ前はできていた遠出や外食の再開を目標に頑張っている。家族との外出希望は積極的にできるよう、支援されている。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所預かりの方が大半であるが、自身で持ち、本人の希望により、買って来て欲しい物がある場合は職員が代わりに買い物をして支援している。又、受診のついでにお店に寄りたいと希望されることもあり、買い物や自ら支払いができるよう支援もしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃で館内を清潔に保つことは勿論、臭い対策としてこまめな換気や、カーテンによる採光調整も行っている。壁画や装飾で季節感を感じられるようにしている。	施設開設当初より、各居室には温度、湿度、換気、採光等の「空調チェック表」がある。職員の「意識」がそこにあり、各居室が居心地の良い空間となり、感染予防対策にもなっている。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は勿論、座席に配慮しリビングに集い、思い思いに過ごせるような空間作りに工夫している。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた物や、好みのものを本人と相談しながら用意し、居心地よく過ごせるように工夫している。	居室には家具や使い慣れた好みのものを持ち込んでいる。壁には家族や本人の写真、本人が作った作品を貼るなど、本人・家族の意向を汲んだ居心地の良い空間となっている。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーや尊厳が損なわれることの無いよう、その人に合った言葉掛けに気を付けて対応している。		